

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

理学部

部局長名：

吉野 雄二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b>	<p>1. 学部教育への功績、および高大連携・市民講演会などを通じて岡山大学理学部の広報に功績があった教員3名に教育貢献賞を贈った。またピアレビュー(学科によってはこの代替として副担任制)を今年も実施し、質の高い教育の維持に努めた。</p> <p>2. 引き続きフロンティアサイエンティスト特別コースの学生を選抜し、学年の早い時期から最先端の研究に触れる機会を多く与えた。</p> <p>3. 第3年次編入学試験の広報のために高専訪問を行った。また、入試広報のためにオープンキャンパスを実施した他に、入試説明会等に参加した。さらに、ホームカミングデイにおいて講演会及び懇談会を実施した。</p> <p>4. 本年度もSelf Learning SquareとAcademic Adviser Roomを運営し、学生の自主学習を促すとともに学習環境の充実を図った。とくに、今年はAAAの院生に自主ゼミを企画させ、学部生相手に入門的な講演などを行わせ、学部生と院生との距離を縮めることを図った。</p> <p>5. 教科書、参考書を電子教材として学生に提供するために電子書籍を導入した。また、その利用を促すための電子書籍利用セミナーを開催した。</p> <p>6. 教務委員会において、来年度から実施される60分4学期制に対応したカリキュラムの変更を行った。</p> <p style="text-align: center;">本年度の前期日程試験の理学部志願倍率は2.1倍であった。大学全体で志願倍率が下がっている傾向にはあるが、理学部の倍率についても下がった背景について分析を行う必要がある。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
前期日程試験の志願倍率2.5倍を確保する。	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b>	<p>1. 現在行われている優れた研究を継続的に発展させるために理学部研究推進経費の配分を行った。科研費申請で審査結果が不採択であったものの、その結果がA評価であった者を対象に8人に対し研究費の支給を行った。また、科研費を代表者として申請した者を対象に、物品等購入のための補助金として200万円を上限として支給した(4件)。</p> <p>2. 理学部において特に発展が期待される分野を「異分野基礎科学研究所」に集約させるための準備・支援を行った。</p> <p>3. 研究成果は継続的にウェブ等を通じて公表している。 <a href="http://www.science.okayama-u.ac.jp/research/index.html">http://www.science.okayama-u.ac.jp/research/index.html</a></p> <p>4. 平成28年度科研申請者は63人であり、申請可能な教員のほぼ全員が申請を行った。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
科研費申請が可能な教員全員が申請を行うことを目指す。	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b>	<p>1. H27年度については公開講座・出前授業等への講師派遣は12件、高専訪問は6件、理学部への高校生受け入れは13件であった。</p> <p>2. 化学科において国際ワークショップを開催し、国立台湾大学及びチュロンコン大学の学部学生と岡山大学学生がともに学ぶ授業を開催した。この事業を含めてH27年度は、留学生受入数21、派遣学生数22であった。</p> <p>3. 海外の研究者との共同研究を推進している。現在、外国籍の教員6名、女性教員7名が在籍している。</p> <p style="text-align: center;">今年度は講師派遣・高専訪問および高校生受け入れをあわせて31件実施し、目標を達成している。今後も優秀な学生の確保及び地域の科学普及のために積極的に活動を続けていきたい。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
高大連携事業や地域の科学普及活動などを年にのべ30件以上実施する。	
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>今年度については、異分野基礎科学研究所の設立に理学部としては多くのエネルギーを費やしてきた。次年度に向けて、教育に関しては理学部を中心に、異分野基礎科学研究所の協力を得ながら行っていく体制の整備が必要となる。また研究面においても、理学部と異分野基礎科学研究所との協力関係の下で行うことを前提に体制を整備していく。</p>	